

第8回国際 *Verticillium* シンポジウムに参加・発表 および *Verticillium* 病の現地調査

小池正徳

畜産環境科学科作物科学講座助教授

1. 目 的

第8回国際 *Verticillium* シンポジウムに参加・発表および *Verticillium* 病の現地調査

2. 期 間

2001年11月1日～11月14日

3. 場 所

スペイン・ゴルトバ

4. 内 容

第8回国際 *Verticillium* シンポジウムはスペインのゴルトバにおいてゴルトバ大学農学部 Diaz 教授がコーディネーターとなり 2001年11月5日から10日に開催された。本シンポジウムは糸状菌で不完全菌類の *Verticillium* 属菌の分子生物学、遺伝学、生態学、防除等を主なテーマとし4年おきに世界各国で開催されるシンポジウムである。今回は約20ヶ国から100名程度、スペイン国内から20名程度の参加数であり、演題数は口頭発表とポスターを合わせ78であった。

今回は同時多発テロの影響で米国やカナダからの参加者のキャンセルが多かった。私も当初大学院生をとめない4名で参加する予定だったが、学生の親からの意向もあり私一人の参加となった。残念ながら4演題中2つはキャンセルしてしまった。

セッションは大きく分子生物学、遺伝学、病原菌と宿主の相互作用、育種、生態、防除にわかれ各セッションをほぼ一日ずつ消化していった。特に注目されたのは防除法のセッションで従来 *Verticillium* 病や *Fusarium* 病等の土壌病害で効果を発揮していたクロールピクリン（臭化メチル）の使用規制がこれからなされる中、いかに土壌中の微生物環境を制御して病気の発生を押さえるのか、耕種的・生物的防除法の発表がかなりの部分を占めた。

私自身このシンポジウムに参加するのは3回目であった。今回旧交をあたため、また新たな貴重な情報を得ることができた。

また現地調査ではゴルトバ大学植物病理学研究室の協力を得て、ゴルトバ周辺のオリーブ畑の

調査に同行させていただいた。一昨年ローマからシシリー島に向かう途中車窓から確認できた *Verticillium* に犯されたオリーブの木を予想していた。しかし、スペインのアンダルシア地方はコルトバ大学のスタッフの努力によりかなり *Verticillium* 病の発生が押さえられていた。それは生物防除剤として *Bacillus* 菌を施用しているからである。この *Bacillus* 属菌はアテネ大学の Tjamos 博士が開発したもので、ヨーロッパの果樹、樹木等にかかなり使用されている。

以上簡単ではあるが報告を終わる、詳細については雑誌「植物防疫」に掲載予定であるので興味のある方はそちらを参照してほしい。また最後にスペイン出張にあたり援助をいただいた帯広畜産大学後援会に深謝する。